

# なきごえ



1983

5

大阪市  
天王寺動物園協会

伊藤達也



昭和54年の4月、私は18年ぶりに動物園勤務を命じられました。かつて4年間を飼育係として過ごした動物園は、本当になつかしい職場です。この18年間に、福岡動物園も大きく

変わっていましたが、動物園を取りまく社会情勢も、当時とは大部変わっていることを感じて感慨深いものがありました。それもつかの間のこと。この年、福岡市と中国の広州市とが友好都市となることを記念して、ジャイアントパンダをぜひ福岡市へつれて来ようという計画が持ち上がったのです。それからというもの餌や獣舎のことなど、無我夢中で受入準備に取り組み、翌年の3月末、一番のジャイアントパンダが来園したのでした。

わずか2ヵ月間でしたが、ジャイアントパンダを収容展示した動物園として、我国では上野動物園に次ぐものです。動物園長としては願ってもない幸運に恵まれたと申せましょう。この間87万人を超す入園者があり、無事広州動物園へ送り帰して肩の荷を降ろしたのですが、このようなことは、動物園としては本当に特異なる例であろうと思います。

ところで、つい最近のこと、小学生時代の友人に会う機会があり、お互いに昔話にふけたのですが、その時彼は「君は子供の時から動物園長になりたいと言っていたが、その通りになれて幸せ者だ」と申します。私自身、小学生の頃からそんな希望を持っていたような記憶はなく、当時の男の子の多くがそうであったように、軍人になりたいと思っていたはずだがと苦笑したものでした。確かに生き物を飼うことが好きでしたが、これは父の感化を受けたようです。父は鳥好きでして、カナリアの巣引きをしたり、ウグイスを飼ったりしていましたが、その世話を私に手伝わせてくれました。又、日曜日には小鳥屋を

\*\*\*\*\*

なきごえ5月号もくじ

動物と私	2
“ジャガーが入園しました”	3
動物園日記・動物園グラフ	4・5
南港の鳥	6・7
野鳥の保護について	8・9
動物なんでも相談室③	10
動物園ニュース	11

\*\*\*\*\*

のぞきに行くのが楽しみで、今のペット屋さんのように明るくはなやいだ店ではありませんでしたが、そこには色々な飼い鳥が並べられており、その色彩、形、鳴き声等に夢中になっていたことを憶えています。その後戦災にあつて郊外の農村地帯に移り住んでから、今までの街の生活になかった身の廻りの自然に心をひかれ、野鳥や野草の四季折々の変化に新たな楽しみを見つけたものです。

その頃、図書館で見つけたシートンの「動物記」は心に残る本で、躍動する野生生物の描写は、探険物とは異なった動物の世界へ誘ってくれました。この他にもW・Hハドソンの「小鳥を友として」等も私達を取りまく自然環境のすばらしさ、それを見つめる自然観察の温い目を教えてくれましたし、いわゆる博物学への興味をそそられました。

大学ではいろいろ迷った結果、畜産学を選んだのですが、卒業したものの深刻な就職難の時代で、浪人を余儀なくされましたが、こんな時福岡動物園で飼育係を募集しているのを知り、早速応募したのでした。

当時の福岡動物園は開園4年目で、それこそ発展途上園といったところでしたので、香川勇園長以下職員一同色々苦勞した時代でしたが、それも今年は開園30周年を迎え、今昔の感がひとしおです。

18年ぶりに動物園の仕事にたづさわって感じたことは、飼育技術や獣医技術が大きく進歩したことです。かつては困難とされていた動物が飼育され繁殖さえもしているのは本当に素晴らしいことです。又、展示方法や教育活動にも熱心な努力が払われていて、各地の園で色々な施設が整備されているのが見られます。その反面、動物愛護や自然保護の観点から批判的な意見もあります。かなしいことに野生生物の減少も深刻です。これからの動物園はこのような問題に対応しなければならぬといわれています。

私なりの目標として、清潔で安全な、成人の觀賞に耐える動物園、科学教育や自然保護の面で存在価値のある動物園を目指したいと考えていますので、今後とも皆様のご指導をお願いします。

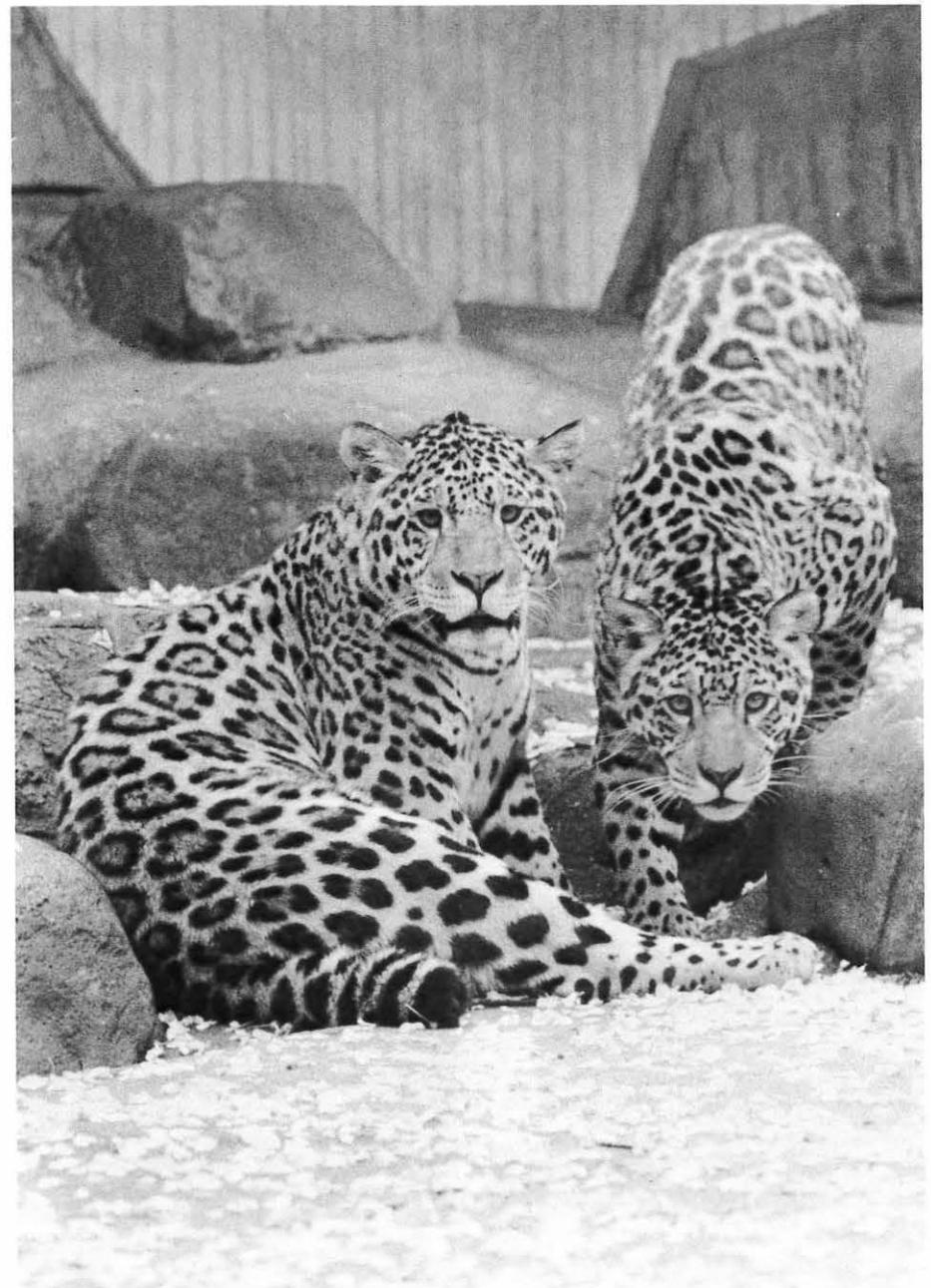
(福岡市動植物園動物園長)

表紙の写真説明

“ムナグロ”

全長24cmぐらいのチドリの仲間の鳥です。日本へは春と秋の渡りの時期に、海岸の干潟や水辺などに訪れます。夏羽はその名が示すように、顔の下面から胸にかけてまっ黒になります。

(撮影：榊原安昭)



“ジャガーが入園しました”

3月26日、天王寺動物園に初めて一番のジャガーが入園しました。ドイツ生れのこのペアはまだ1才の子供ですが、数年のうちには可愛いベビーを誕生させてくれることでしょう。(撮影：長瀬 健二郎)

# 動物園グラフ

## “鳥の保護から復帰”

昨年度は、200羽にもおよぶ鳥たちが当園に保護され動物病院は毎日おおにぎわい。看病する側も大変でした。今回はその現場をちょっとのぞいてみましょう。  
(撮影：森本委利)



左翼の骨折で保護されたゴイスギ。骨折部ではウジがすでに発生していた。



ユリカモメを触診しているところ。



保護されたキジバトのヒナ。

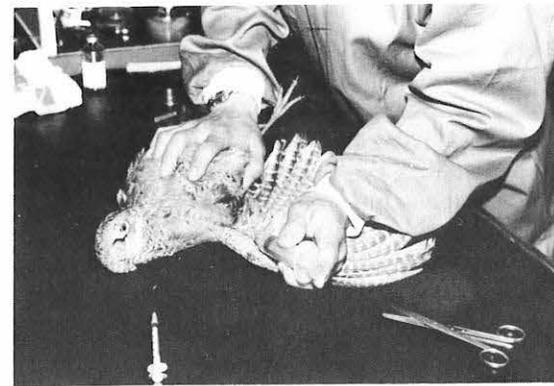


右下腿骨折(矢印)で保護されたヒドリガモ。(X線写真)

### 3・4月の動物園日記

- 3 / 18. 今年初めて生まれたキジ類の卵をふ卵器へ入れました。
- 3 / 19. 昨年7月に生まれたカリフォルニアアシカの子の魚への餌付けを始めました。
- 3 / 20. 人工哺育中のクロオオカミの子4頭(オス1、メス2)に、離乳食を与え始めました。
- 3 / 21. 定例飼育研究会が開催されました。
- 3 / 22. ヒクイドリが発情・交尾しました。
- 3 / 23. 釣針を誤嚥したゴイスギ1羽を保護し、手術により釣針を取り除きました。
- 3 / 24. コブハクチョウが2卵、産卵し抱卵してい

- るのを確認しました。
- 3 / 25. フクロテナガザル(メス)1頭の寄贈がありました。
- 自然哺育中のクロオオカミの子(4頭)が馬肉や鶏肉を食べているのを初めて確認しました。
- 3 / 26. ジャガー、一番(ひとつがい)とカラカル一番が入園しました。
- 3 / 27. キーウィのヒナ3羽の体重測定を行いました。一番軽いロンロンは1370g、重いダイは1960gもありました。
- 3 / 28. 近畿地区動物園獣医師勉強会が、当園で行なわれました。
- 3 / 29. 人工哺育中のクロオオカミ4頭にパルボウ



骨接で衰弱しているコウライキジに栄養剤を注射しているところ。



スズメのヒナたちへ割りばしでスリ餌を差し餌しているところ。

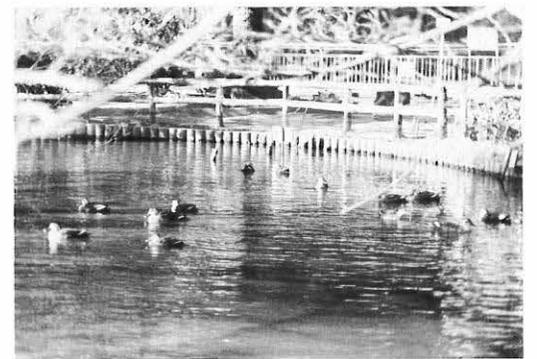


アジを差し餌されるオオミズナギドリ。

- イルスのワクチンを接種しました。
- 3 / 30. クマ4種の検便を実施しました。
- 3 / 31. フタコブラクダの子が1頭生まれました。
- 4 / 1. 昨日生まれのフタコブラクダの子が起立できず衰弱が激しいので隔離し治療を施し、人工哺育に切りかえました。
- 4 / 2. フクロテナガザルの展示を始めました。
- 4 / 3. ボランティア例会があり、アフリカの動物のスライドによる勉強会を行ないました。
- 4 / 4. 自然哺育中のクロオオカミ(4頭)の性別確認、体重測定、それにワクチン接種もあわせて実施しました。
- 4 / 7. ジャガーの展示を始めました。



元気を取り戻したトビの放鳥シーン。



南園の池で元気に泳いでいるカモたちの中には、保護されたものも多い。

- 4 / 8. ニホンザルの子が1頭生まれました。
- 4 / 9. 3月末生まれのフタコブラクダの子が起立できず、治療にもかかわらず死亡しました。
- 4 / 10. とともに足を負傷したコウライキジならびにトビを保護しました。
- 4 / 11. コンドルが交尾しました。
- 4 / 12. 中国領事館領事以下3名が来園されました。
- 4 / 13. 自然哺育のクロオオカミの一般公開が本日より始まりました。
- 4 / 15. シュバシコウ9か所、アオサギ4か所、コサギの水禽放養舎内での営巣を認めました。
- 4 / 19. ケープペンギンの個体識別のため、カラー翼帯を装着しました。

# 南港の鳥

広田博厚

## 1. 初めに

南港は大阪市住之江区にあります。現在では南港ポートタウン、フェリーふ頭や工業団地等があり、住之江公園駅からはニュートラムで連絡されており、現代都市の景観を保っています。

ところで、この南港地区は昭和33年から、大阪府港湾局が海面を埋立て、整地した上に建設が進められてきたものです。

埋立地は泥質地→湿地、池沼を含む草原→乾性の草原→目的に応じた建物の建設というふうに変化しますが、昔は大和川河口にいた湿地や池沼を好む野鳥達は、埋立が西と北の方向へ進むにつれて、やはり同じように移動をせざるをえなくなり、現在では南港地区の北西端、約20haに、池とわずかな草地が残され、ここに押し込められた状態になっています。

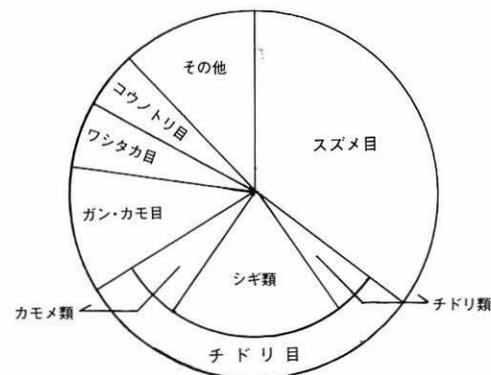
昭和58年秋の開園を目標にして、この部分に野鳥園が造成されつつあり、南港においては、この一帯が野鳥観察に適した場所となっていますので、この付近の野鳥について、主に語ります。

## 2. 南港にはどのような野鳥が出現したのか

過去、南港においては224種の野鳥が確認されました。これは日本産鳥類目録の44%にあたる大きな数字です。特にシギ・チドリ類に限ると、54種、75%と非常に高い数字で、かつて大阪府内で出現したのは57種ですので、95%まで南港に出現したということになります。いずれにしろ日本を代表するシギ・チドリ類の渡来地であったといえます。

さて、出現鳥の内訳をみることにしましょう。スズメ目36%、チドリ目31%、ガンカモ目11%、ワシタカ目6%、コウノトリ目5%です。山をすみ場所としているホトトギス目の鳥は観察例がなく、同じくキツツキ目の鳥は、アリスイの1種のみが確認されています。

スズメ目は一番多いのですが、この目自体が多く



南港の鳥、目別出現率

の種を含んでいるのです。周年みられるスズメ、ムクドリ、セッカ、モズ、ハシボンガラスや、ある季節のみにみられるツグミ、ハクセキレイ、オオヨシキリ等が代表種です。

チドリ目も非常に高い比率となっています。カモメの仲間ではセグロカモメ、カモメ、ユリカモメ、ウミネコ、コアジサシ、アジサシが、シギ・チドリ類ではイソシギ、ハマシギ、トウネン、キアシシギ、コチドリ、シロチドリ等が普通にみられるものであり、迷鳥としてコモンシギ、ヒメルマシギ等も飛来したことがあります。

ガンカモ目では、マガンやヒシクイ等のガンの仲間が観察されたことがありますが、ここ20年間はみられておりません。カモの仲間では、カルガモは1年を通してみられる他、23種が確認されていますが、現在では常時住めるような環境がなく、少数が野鳥園予定地内、南の池に入れ替りやってきました。

ワシタカ目は13種が出現していますが、トビ、チョウゲンボウ、ミサゴは最近でもみられるものです。コウノトリ目ではコサギ、アオサギ、ダイサギ、ゴイサギ、アマサギ等、西日本で普通にみられるものは、水辺にて、ほぼ観察されており、まれなカラシラサギの記録もあります。

以上、みてきたように南港に出現する野鳥は、草原、池沼、干潟、海洋を好むものが中心となっています。

## 3. 四季の野鳥

私達、日本野鳥の会大阪支部では1981年3月より、野鳥園予定地を中心として月例探鳥会を行っています。それによりますと月々17~37種の野鳥を確認しており、個体数で287~2201羽をカウントしました。それでは、季節の変化につれて、どのような野鳥がいるのかみてみましょう。

3月はまだ寒く、冬鳥の季節です。まばらな草地には猛きんのコミミズクがひそみ、チョウゲンボウはヒラヒラと飛んで、たまにスズメの群れを襲った



コミミズク

りしています。しかし、春の気配も感じられるのです。南の国からの使者、ツルシギが淡水性の池に姿をみせたこともありました。

4月になると、枯草におおわれていた野鳥園予定地付近にもハルノノゲシやセイヨウタンポポの黄色い花が顔をみせ、野鳥ではコチドリ、シロチドリが南から渡ってきて、その数も多くなってきます。

5月に入ると、水辺のヨシの色が緑に変わり、ヒドリガモ、コガモ等のガンカモ科の鳥やセグロカモメ、ユリカモメ、カモメが姿を消し、ツグミ、カシラダカ等も北の国に帰ります。しかし、コアジサシが南からやってくる、多数が上空を舞うようになり、水辺にはアオアシシギ、タカブシギ、トウネン、メダイチドリ等のシギ・チドリ類が餌をとっているのを眺めることが出来ます。また、この頃、日本の亜高山帯で繁殖するエゾムシクイや低山帯で繁殖するセンダイムシクイやキビタキ等が、渡りの途中、付近の小高木に飛来して、枝移りしたり、さえずったりしていることもあります。

6~7月は野鳥の繁殖期です。鳥の種数は、ぐん



コチドリ

と減りますが、逆に個体数は最も多くなります。ヒバリとセッカは乾性の草地で、オオヨシキリは湿性の草地で、カルガモとバンは水辺の草むらで、コアジサシ、シロチドリ、コチドリは砂の上や乾性の裸地で抱卵し、ヒナをかえします。ですから、この時期に黄色と黒のマダラ模様の、可愛いヒナ数羽を連れたカルガモの親をよくみかけます。

8月に入ると、南港は既に秋の気配です。北の国で繁殖を終えたシギ・チドリ類やアジサシが再び姿を現わします。キリアイ、エリマキシギやヒバリシギは秋に多く観察されています。



アカエリヒレアシギ

9月はシギ・チドリ類の種数が1つのピークを示す月です。台風がやってくる直前や直後に、海洋性のアカエリヒレアシギが、池の水面をクルクルと回りながら泳いでいるのをみかけることがあります。南港で一番多く繁殖し、にぎやかにギリッ、ギリッと鳴いて上空を乱舞していたコアジサシも、この月限りで南の国へ旅立ちます。

上空を飛んでいたウスバキトンボの姿がみえなくなり、アキアカネ、ナツアカネ、ノシメトンボ等のアカトンボが多く空を飛ぶようになると10月をむか



ヘラシギ

えます。シギの数も減ってきますが、比較的遅くやってくる、クチバシがヘラ状をした小さなヘラシギもまれにやってくる場合があります。池の中には北の国から再びやってきたカモ達の姿をみることが出来るようになり、また、日本の北部で繁殖したハクセキレイも越冬のためにやってくる。ノビタキも渡りの途中に草むらに姿をみせます。

11月からはすっかり冬鳥の季節です。水辺には旅鳥としてのシギ・チドリ類の姿はなく、ハマシギが大きな群れをつくります。少数のカモに加えてカモメの仲間も多くみかけるようになり、チョウゲンボウ、コミミズクも再び草地に現われます。草地には美しいジョウビタキの姿もみられ、大阪ではめずらしいタカであるチュウビや、日本でもわずかな観察例しかないオオハシシギも越冬したことがあります。

## 4. 最後に

南港は年がたつごとに野鳥の住めるところが減ってきており、現在では野鳥園予定地内の3つの池とその付近の草むらのみという状況になっています。でも、野鳥の種類も数も、ぐんと減ってはいるものの、今までみてきたように、四季折々にその季節を告げる野鳥を眺めることが出来ます。

幸い野鳥園も、この1983年秋に開園の予定です。従って、この野鳥園やその周辺を、かつて多数観察できたシギ・チドリ類や、その他の野鳥が帰ってこれるような環境づくりをした上で待ちたいと願うものです。

(日本野鳥の会大阪支部会員)  
(写真提供: 日本野鳥の会大阪支部)

# 野鳥の保護について

## § はじめに

傷つき弱った野生の動物たちが、きょうも動物園に運ばれてきました。きょうの動物はキジバト。やせて衰弱が激しい。こんなときはまず保温、それに栄養剤、抗生剤などの投与。まだヒナだから自分でえさを食べることは恐らくできません。でも、今この状態でえさをやってノドをつまらせてしまえば何



釣針を飲みこんだゴイサギ (X線写真)

にもならない。えさは元気がでてきてからのことにしよう。保護時、このように衰弱した鳥に対してしなければならぬ処置が次々と脳裏に浮かんできます。特に、鳥は適切な処置の少しの遅れが、命とりになってしまうことが多いのです。ですから、保護動物でも哺乳類より鳥類にずっと気を使ってしまいます。また、別表にも示しましたが、鳥類の保護は数も多く、毎年急激な増加傾向を示しているのがわかりただけだと思います。これは、野生動物保護精神が一般市民に浸透しつつあることの一つの証しといえるでしょう。

動物園は、野生動物保護の一翼を担っていることをご承知のことと思いますが、今回は日夜その最前線で奮闘する動物園の活動をご紹介します。

## § 動物園への保護依頼

いままでに、多くの市民の方々によって野鳥が保護され、動物園に持ち込まれました。市民の方が、直接持ってこられる場合や、大阪府庁の自然保護課を通じて持ち込まれるものなど様々なケースがあります。動物園に持ち込まれますと、まず所定の用紙

年度	鳥類	哺乳類	爬虫類
53	74	11	10
54	65	9	3
55	94	4	9
56	127	17	10
57	184	14	9

ここ数年の野生鳥獣の保護数(当園年報より)

に、保護者名や住所、電話番号をご記入頂き、さらに、保護された場所や日時、天候、保護して与えられたえさやその回数など、なるべく詳しく聞きとり、用紙に記入し、後日のための資料に供します。そのあと、保護者もまじえてその鳥を視診・触診し、ケガの部位ならびに健康状態のチェックをおこないます。

## § 動物病院へ

先の外部チェックののち、その鳥は動物病院に移され、さらに詳しい診察をつけます。外からみて明らかに判定がくだせるもの、例えば、翼・足の骨折、外傷などがあれば治療する側としては非常に助かるわけですが、内部、とくに腹腔内や胸腔内、あるいは頭骨内に異常をもっている鳥の判定はなかなかうまくいきません。体内の異常で多いのは出血です。鳥の場合、胸腔内や腹腔内にかなり出血していたとしても、生き続けていることがよくあります。その場合、えさはほとんどうけつけないことが多いです。ヤマシギなど飼育していてよくわかるのですが、一直線に飛び、物によくぶち当たります。翼面積が体重に比べて小さすぎるのかも知れませんが、とにかく物によく衝突します。事実このヤマシギ、自然界でも衝突が多いのか、保護されてくる鳥の中では体内出血の多い鳥の1つに数え上げられます。

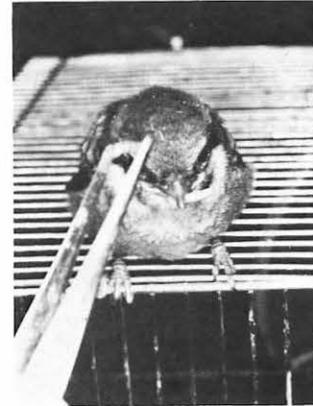
体内の異常でも、釣針を飲みこんでいたりすればX線写真でピタリと診断がつき、治療・手術に入れます。釣針なども、喉頭部や頸部食道などでとどまっているときは取り上げやすいのですが、胃内や胃付近の食道となると困難を極めます。骨折の場合、



テグスが足にからまって趾(ゆび)が変形したキジバト。

足にしても翼にしても骨の途中で折れているものでは、固定をがっちりしておきさえすれば治りますが、骨端部で折れているときは、うまく治らないことが多いのです。人の骨折は簡単に治ることが多いですが、これは人では自分から安静にして、骨折部が動かないようにできるためです。それに比べ、動物たちは安静にしていってくれるはずがありません。骨

折をしていようが、外傷を負っていようが、衰弱が激しく動けない状態のとき以外は、動き回ります。これも害敵から身を守るための術なのでしょうが、それがこちら治療する側にとっては困ることなのです。それだったら、人のように入院させて患者をベッドに釘付けにするように、鳥も動きまわれないようにしたらどうかと言われるでしょうが、野生の鳥



ピンセットでミールワームの給餌をうけるモズのヒナ。

をそのようにすれば、それがストレスになってすぐに死んでしまいます。ですから骨折のときは、骨折部を固定しても十分動ける状態にしておかなければなりません。外部損傷がなく内部損傷・疾患が疑われるような鳥の場合は、栄養剤・抗生物質の投薬あるいは注射を行ない、寒い時期ですと適切な保温も施し体力回復に努めるようにします。それとともに、自分でえさを食べないものは、強制給餌、俗に言う差し餌もおこない滋養をつけさせます。でも弱っているときは、与えた餌もうけつせず、すぐに吐出することの多いのは事実です。

毎年11月頃になると、日本で繁殖し終り台湾やフィリピンなどの暖い海域を求めて渡りのために飛びたつばかりのオオミズナギドリを、何羽か保護します。体の内外ともに損傷を負っている個体は少ないのですが、栄養状態が悪いものが多く、保護時よりさっそく差し餌を行ないます。そして、どこに異常が存在するのか見つけられないまま衰弱死するケースが多いのですが、ほとんど健康に近い状態で保護されてきたオオミズナギドリは差し餌加減と安定した飼育環境で長期飼育が可能と思われます。現在保護中の、名前をツヨシというオオミズナギドリは、6か月間入院生活を続けています。体は健康そのものですが、長い入院生活のために翼の羽のいたみが激しく自然復帰はちょっとむづかしいようです。

## § 餌付け

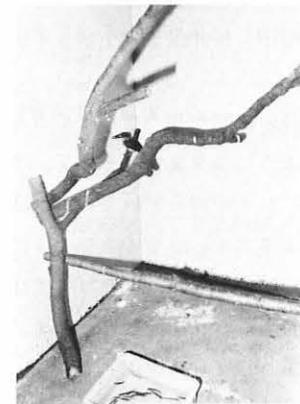
給餌されているえさを自分で食べるようにすることを餌付け(えづけ)といいます。この餌付け成功は、元気回復の重要なカギになります。つまり、一定のえさを一定して食べてくれるようにならなければ元気回復を望むことはむづかしいのです。とくに、

動物園では、餌として使用している飼料は、自然界で鳥たちが食しているものとは大変違います。キジ類などのようにニワトリと同様のえさでいいものはすぐに餌付きませんが、肉食のものは困ります。動物園のえさには生きていないものばかりありません。現在、鳥に与えている生きたえさは、ドジョウ、ミミズ、ミールワームのみです。冷凍アジ、馬肉、オキアミなどはすべて生きていないものです。トビやカラスは、そんなものにもすぐにとびつきますが、多くの鳥たちは、動物園で与えられる今まで見たこともないようなえさを、すぐには絶対食べようとしません。オオミズナギドリのように、ずっと差し餌をしなければならぬものから、フクロウ類のように差し餌を続けているうちに、自分で食べるようになってくれるものなど様々です。またヒナでは、パンのような早成型のヒナは、食べそうなえささえやってあげれば自分で食べますが、スズメやヒヨドリのような晩成型のヒナは、こちらから1日に数十回も、エサを与えてやらないと成長しません。

## § 放鳥・展示へ

保護によって一命をとりとめ元気を回復した鳥、ヒナからりっぱに成長した鳥たちは、もとの自然に放鳥あるいは動物園で展示飼育されます。中にはそのどちらでもできず、ずっと入院暮らしという羽目になる鳥も少なからずでてきます。このような鳥の処置をどうするのかは、これからの問題です。

自然復帰させること、これぞ野生動物保護の主目的ですが、現存する野生動物がこれ以上絶滅に類する



餌付け中のアカショウビン。

## § おわりに

市民の方々や動物園の連携プレイによって数多くの鳥たちが連日のごとく救われています。人間と動物たちとの共存共栄が、少しずつではありますが着実に実現に近づきつつあるのです。

(飼育課: 森本 委利)



# すてき満喫 近鉄クレジットカード



- 全国の近鉄百貨店グループ・都ホテチェーンなどでワイドにお使いいただけます。
- カードをご提示いただくだけで30万円までのお買物をお楽しみいただけます。
- 繰り延べ払い(リボルビング方式)・一回払い・ボーナス一括払いの3つのお支払い方法がございます。
- 入会資格は20歳以上で2年以上のお勤め、または自営の方です。

近鉄百貨店 お申込み・お問合せは各店クレジットセンター  
アベノ店・上本町店・東大阪店・奈良店・西京都店・東京店

近鉄百貨店グループ

四日市近鉄・京都近鉄・岐阜近鉄・枚方近鉄・和歌山近鉄・近鉄松下(徳山)・別府近鉄・三交百貨店(松阪・伊勢)・近鉄東海ストア

ひかりのくに

監修・阪口浩平  
指導・宮武頼夫

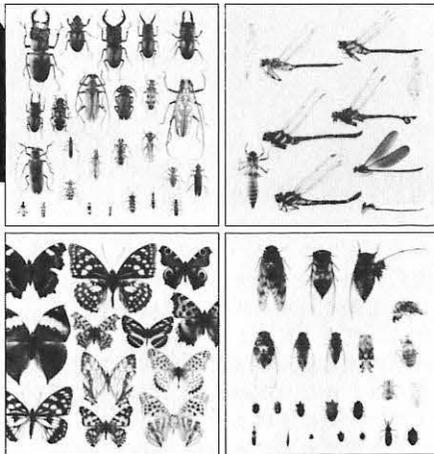
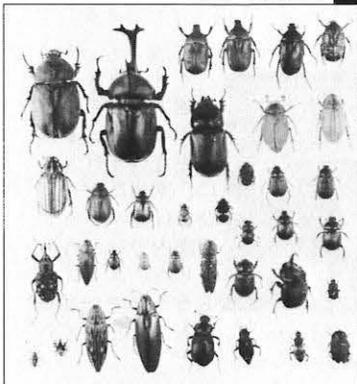
オールカラー

## むし くらしとかいかた

今まで、気にもとめなかつた自然の中で昆虫たちが生きている。みんなも、虫になって自然の中を歩いてみよう。きっとすばらしいことに出会えるはずだ。

580円

ひかりのくに株式会社  
〒543大阪市天王寺区上本町3-2



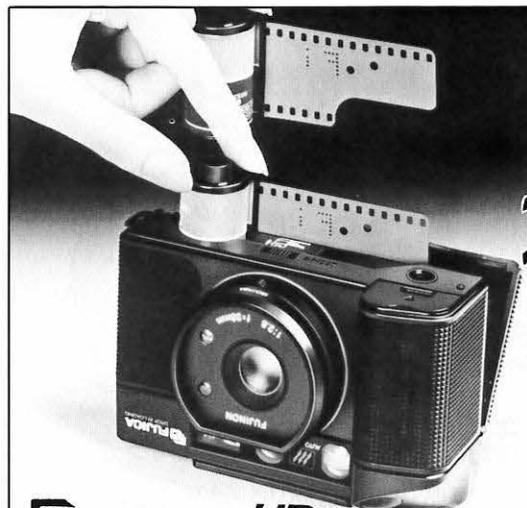
## 天王寺動物園の機関紙

月刊 **なきごえ**

ご購入をお奨めします。

年間購読料 1,100円 (含、郵送料)

お申し込みは、**大阪市天王寺動物園協会**へ  
TEL 06-771-0201



## フィルムポン!

世界で初めて「ドロップイン機構」を搭載!  
フィルム装てんが新しくなった—フジカ  
オートエース&オートメイト新登場!。

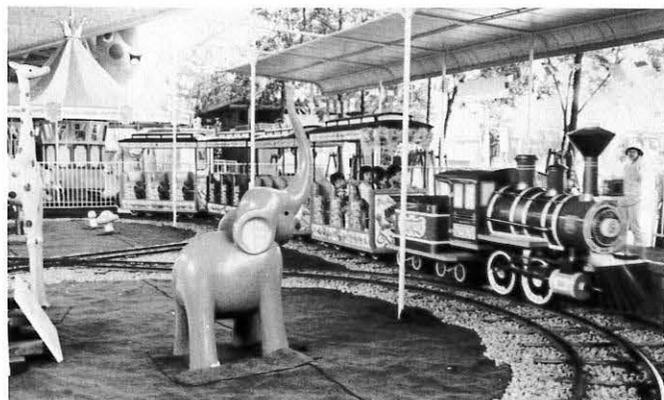
フジカラーHR

—FUJICA—  
オートエース  
DL-100 DATE  
標準価格49,800円

**カメラの大林**

桜橋本店 ☎341-8091  
三番街店 ☎372-5031

## たのしいのりものが待っています。



1人1回  
100円  
(1才まで無料)

団体割引  
(30人以上)  
……1割引

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

## ◎ 動物のことなら あらゆることにお役に立ちます。

- 飼育指導 (ペットよろ)
- 飼育指導 (ペットよろず相談)
- ふれあい子供動物園
- ふれあい動物写真会
- 撮影用動物モデルリース
- 動物(ペット)、教材用生物販売、リース、交換、引取り、預り
- 各種飼料、器具販売、配達

自然から学ぶおもいやり

株式  
会社

**アニマ**

(いきもの110ばん)

☎ 06-863-1025 (代表)

〒561 豊中市利倉2丁目22-2

全国の愛犬家の共感を呼ぶ  
無比の愛犬歌集

# 歌集 犬の歌

動物文学会主宰  
平岩米吉著

(天金美装・箱入  
B6判・270頁  
2500円・〒不要  
(直接申込を))

著者が、約40年の間に、共に暮した70余頭の犬の生と死を歌った419首を収録。同時に、その誕生より老齢に至る写真47図を収め、犬の一生の生態写真集でもある。

動物文学会 〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2  
電話(03)717-1659・振替東京5-9800

日本図書館協会選定  
全国学校図書館選定

# 狼

その生態と歴史  
犬科生態研究所長  
平岩米吉著

A5判・320頁・  
口絵挿絵等140図  
定価2800円・〒300円

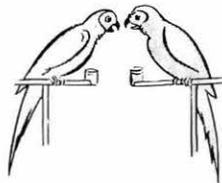
待望の日本狼の正史ついに完成!

☆犬科動物の研究者として、当代随一の著者が、数十年にわたり収集した正確な資料を、生態学の目をもって描いた空前の書。  
☆日本狼は、大口の真神とあがめられた古代より、のちには病狼と恐れられ、やがて絶滅に至るまでの経緯を詳述。

## 主な目次

序 狼への幻想と現実	5 狼の伝説
1 犬科の分類と解説	6 日本狼の特徴
2 犬と狼の関係	7 日本狼の絶滅
3 日本狼の歴史	終 狼を飼った人々
4 狼狩の記録	

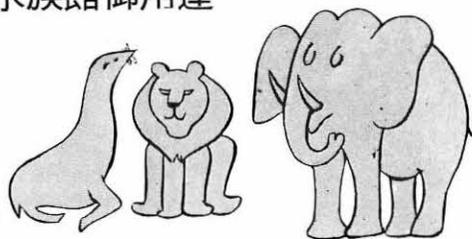
発売 (株)池田書店 東京都新宿区弁天町43番地  
振替・東京4-165425



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

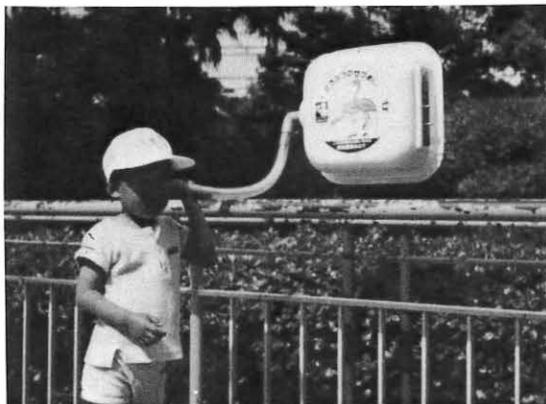
- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円



## 有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二番地 電話(078)221-8195・221-1517  
飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494

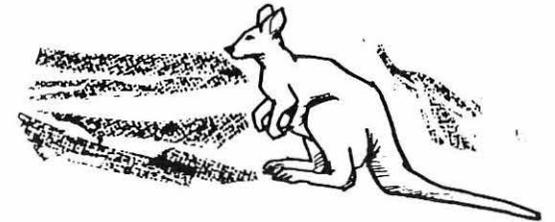
たのしい動物のお話は、  
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎  
30数カ所にあります

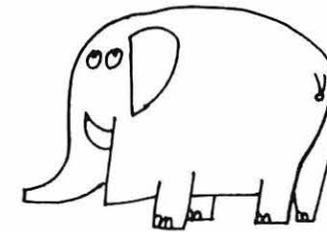
1回 20円

……………ぼっちゃん  
……おじょうちゃん  
どうぶつえんへ……………  
いらっしやいませ……………  
ごきゅうけいは……………  
おしょくじは……………



動物園内北園  
**中央売店**  
☎ (06) 771-0973

## 天王寺動物園内



## 南園売店

代表者 松谷良子

大阪市天王寺区茶白山町6-74  
電話 (06) 771-7110番

園内でのお写真は…  
動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機しておりますので説明に伺いました際は、よろしくお願ひ致します。

カラー写真 キャビネ1枚 500円  
撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせていただきます

国際航空写真株式会社  
TEL 06-856-7444

新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。



果肉とソフトヨーグルト  
の名コンビ

自然の  
おいしさ



# 雪印ヨーグル

●ブルーベリー・キウイフルーツ・ストロベリー・オレンジ・カクテル

なきごえ 昭和58年5月15日発行(毎月1回15日発行)

第19巻 第5号 (通巻213号)

編集 / 大阪市天王寺動物園

〒543 大阪市天王寺区茶白山町6-74

発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 中川道朗

電話 大阪 (06) 771-0201

印刷所 / 株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

振替口座 大阪 37823

1年継続(12部) 1,100円(送料共)

編集委員

(橋本 一郎・土井 良彦・樽本 勲・中川 哲男・宮下 実・長瀬健二郎)  
榊原 安昭・森本 委利・大野 尊信・葭谷 文彦・農本 武志・野口 秀高  
仲谷 登・小出 雅三・板野 健一・石島 宏胤・柴田 総